

科目	国語
----	----

## 令和6年度使用教科用図書調査報告・選定理由報告書（一覧表） 小学校

観点	所見	所見	所見
資質・能力の育成について	言語の教育としての国語科の特質を明確にし、児童が言葉による見方・考え方を働かせながら、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを目指されている。また、日常生活に必要な国語の特質について理解し、さまざまな場面で主体的に活用でき、生きて働く知識・技能として習得できるよう、教材化や単元配列が工夫されている。 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、その能力の向上を図る態度を育成できるよう、教材化や単元配列が工夫されている。	学習指導要領国語科の目標である「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力の育成」が実現できる構成となっている。各学年の内容をもれなく扱うとともに、教科及び各学年の目標が確実に達成できるよう、単元や教材の内容を設定し、適切に組織配列されている。	国語による理解力や表現力を育成し、豊かな言語感覚を養うために、系統的な学習を意図して単元の目標やねらいを明確にし、言葉による見方・考え方を働かせて、児童が自ら学び、自ら考える力を身につけられるように配慮されている。
学校の教育方針との関連について	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」各領域において、自然や社会に関する幅広い知識・教養に触れたり、真理を求める態度を養ったりできるよう、さまざまな話題・題材を設定し、発達段階に応じて提示されている。 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための工夫として、2年以上の各単元に、見通しをもって学習を進めることができるように「見通しをもとう」を設け、学習過程に基づいた学習活動例を示している。また、児童が自らの考えを見直したり思考を深めたりするために学習活動に対応した児童の反応例を示し、教材末には、ふり返りの観点を示した「ふりかえろう」が掲載されている。	国語科の学習を通じて、自然や社会についての知識や教養、豊かな情操と道徳心を養えるよう、多彩な分野から教材や題材を選定し、児童の関心や発達段階を踏まえて提示されている。 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための工夫として、2年以上の各単元のはじめに、見通しをもって学習を進めるため「学習の流れ」を設け、学習過程に基づいた学習活動例が示されている。また、「児童が自らの考えを見直したり思考を深めたりするために、ふり返りの観点を示した「ふり返る」が掲載されている。	理解力と表現力を高めるために、教科ごとに重点的に学ぶ事項が設定されている。また、学習過程の中に見通しとふり返りの過程を位置づけることで、主体的な学びを促している。更に、各教材に学び合いの場を設定し、対話的な教材学習の中で課題解決を図るようにすることで、深い学びを実現できるよう配慮されている。 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための工夫として、各学年の各単元に、見通しをもって学習を進めるため「見通しをもとう」を設け、学習過程に基づいた学習活動例を示している。また、児童が自らの考えを見直したり思考を深めたりするために、学習活動に対応した児童の反応例が示されている。
題材の選択とあつかい (どのような点を重視しているか)	学年の発達段階を考慮するとともに、児童の学習意欲を喚起すること、また社会の形成者としての児童を育成するよう、その道徳的心情や道徳的判断力が育つことに配慮した内容や題材の選定が行われている。	児童の関心や発達の段階に合わせて適切なものを取り上げている。 読み継がれる名作や現代的視点で書かれた作品などを、バランスよく取り上げている。	積極的に他教科と関連させうる内容・構成に配慮して、社会の中の人間性を見据え、社会性を育てるための教材などを採択している。
編集の工夫 (フォント、紙質、デジタル教科書、QRコード、One to Oneの学習の工夫など)	本文には、教科書のために特にデザインした光村教科書体を用いられているため美しく読みやすいだけでなく、正しい字形を意識させることができるように配慮されている。 QRコードを読み取ることで、教科書の内容に連動したコンテンツを閲覧することができ、学びを深めることができる。 デジタル教科書は、個別最適な学び・協働的な学びを実現する機能が充実している。	本文には、手書きの硬筆文字の筆使い・字形に準拠した、見やすく、文字の指導に適した教科書体を独自に開発し、使用されている。 動画や音声を使ったQRコンテンツは、個別最適な学び、自学自習に対応されている。	活字は文字としての美しさを考慮しながら、読みやすく、力強い教科書体を用いている。また、巻末の漢字一覧で掲出している硬筆体は、書写教科書の筆者の字を使用している。 学習時に参照できる資料等をウェブサイトで見られるようにしている。 デジタル教科書は、国語の楽しさをひらくコンテンツやツールが充実している。
使用上の便宜 (別冊、書き込みなど)	学習に関連する資料をウェブページで閲覧できる二次元コードを掲載している。 各学年の巻末に、当該学年で学習することをまとめた『『たいせつ』のまとめ』を掲載している。	学習に関連する資料をウェブページで閲覧できる二次元コードを掲載している。 3～6年の巻末に、当該学年の学習内容及び全学年の学習内容とのつながりをまとめた「言葉の力のつながり」を掲載している。	学習に関連する資料をウェブページで閲覧できる二次元コード「まなびリンク」を掲載している。 各学年の巻末に、学習に必要な用語をまとめて解説した「学ぶときにつかう言葉」を掲載している。
その他 (特筆すべき内容)	「読むこと」の教材内で用いられた言葉の使い方についてまとめた「言葉に着目しよう」が設けられている。 「読むこと」の単元末に、学習内容と関連する内容の本を紹介する「この本、読もう」が設けられている。	各学年の巻末に、テーマ別に語彙を分類した「言葉の広場」が設けられている。 「読むこと」の単元末に、学習内容と関連する内容の本を紹介する「こんな本もいっしょに」が設けられている。	「読むこと」の教材内で用いられた言葉の使い方が学習できる「言葉をふやそう」が設けられている。 「読むこと」の単元末に、学習内容と関連する内容の本を紹介する「本を読もう」が設けられている。

### 総括

本校国語科の研究主題は「『書く』ことで育む思考力・判断力・表現力」である。選定した教科書は、国語科のテーマである「思考力・判断力・表現力」の単元構成が系統的に位置づけられている。特に「書く」ことでは、児童の発達段階、学習の習熟度、目的性、必然性を考慮して、多彩な言語活動を系統的に位置づけている。また、情報の扱いに関する教材「情報」が設定されており、表現する際に活用できるようになっている。

本校で継続的に取り組んでいる「ブックトーク学習活動」で使用している教材は変わらずに掲載されており、発展学習として「多読」につながる資料も設定されている。そのため、3領域「話す・聞く」「読む」「書く」の力を複合的に伸ばすための言語活動が実践できるような配慮がされている。

また、新しい教材として、ミステリーや「考える」とは何かという普遍的なテーマに挑む教材が取り入れられており、子どもがわくわくする魅力的なものとなっている。

上記の理由とともに、本校の研究主題を進めるにあたって、最も適切であると考え、この教科書を選定したいと考える。

科目	書写
----	----

## 令和6年度使用教科用図書調査報告・選定理由報告書（一覧表） 小学校

観点	書名 書写	書名 新編 新しい書写	書名 小学 書写
	発行者略称 光村図書	発行者略称 東京書籍	発行者略称 教育出版
観点	所見		
資質・能力の育成について	着実に基礎・基本を身につけるために、全教材に学習のポイントを示した「たいせつ」を設けている。 書写の学びを他の教科等や学校生活で生かせるよう、コラムを設けている。 日本の伝統文化への感心を高め、新しい文化の創造に貢献する素地を養えるよう、書き初め教材を設けている。	学習事項のそれぞれのポイントを発達段階に応じて端的に示した「書写のかぎ」を全教材に設けている。 書写の学びを生活に生かせるよう、他教科等の学習や日常生活の関連するコラムを設けている。 文字文化への興味関心の幅を広げ意欲を高めるため、コラム「文字文化コラム」を掲載している。	文字を書く原理・原則を理解するために、文字を書く時に考える視点「ここが大切」を全教材に設けている。 書写の学びを他の教科等の学習や日常生活で生かせるよう、具体的な活用場面を示したコラムを設けている。 文字への興味・感心を高めるため、字源について扱ったコラム「知りたい文字の世界」を掲載している。
学校の教育方針との関連について	様々な文字に応用できる「書く力」を育めるよう、3年以上では、毛筆教材の次に、学んだ事を生かす硬筆ページを設けている。 学習をふり返るための記述欄として、学年の最後に「〇年のまとめ」を設けている。	学びを生活の場に生かすために、3年生以上では硬筆教材の次に、毛筆教材を設け、さらに成果を硬筆で生かす書き込み欄を設けている。 学んだ事を確認して自己評価をするために、各教材に「ふり返ろう」の欄を設けている。	様々な文字に応用できる書く力を育めるよう、3年生以上では毛筆教材と共に学んだことを生かす硬筆書き込み欄を設けている。 各単元の「めあて」で学習の目標に対する達成状況をマークで書きこむ記入欄「ふり返ろう」を設けている。
題材の選択とあつかい (どのような点を重視しているか)	児童が主体的に見通しをもって学習に取り組めるよう、3年の冒頭及び全教材に学習の進め方を写真で示した「学習の進め方」を設けている。	児童が見通しをもって学習に取り組めるよう、2年以上の冒頭に「書写のかぎ」を設けている。	児童が意欲的、主体的に学習に取り組めるよう、2年生以上の冒頭に、児童の学習の書事例や活動写真を示した「学習の進め方」を設けている。
編集の工夫 (フォント、紙質、デジタル教科書、QRコード、One to Oneの学習の工夫など)	B5変型版 低学年は水書シートを付けている。また、なぞり書き用の文字を掲載している。	B5変型判 低学年は水書シートを付けている。また、色などを変え、なぞり書き用手本を掲載している。	B5判 低学年は水書シートを付けている。また、指でなぞることができるように大きな手本を掲載している。
使用上の便宜 (別冊、書き込みなど)	全ての教材に、学習時に活用できる運筆動画等を掲載しているウェブページにアクセスできる二次元コードを示している。	単元導入のページに、運筆のアニメーション等を掲載しているウェブページへアクセスできる二次元コードを掲載している。	全ての教材に、学習時に活用できる運筆動画等を掲載しているウェブページへアクセスできる二次元コードを掲載している。
その他 (特筆すべき内容)	繰り返し定着を図れるように各学年の巻頭に姿勢と筆記具の持ち方を確認する場を設けている。 左利きの児童への配慮として、左手で書く時の用具の配置等を示した写真を掲載している。	繰り返し定着を図れるように各学年の巻頭に姿勢と筆記具の持ち方を確認する場を設けている。 左利きの児童への配慮として、硬筆の手本の下部に練習の枠を設けている。	繰り返し定着を図れるように各学年の巻頭に姿勢と筆記具の持ち方を確認する場を設けている。 左利きの児童への配慮として、左手での鉛筆の持ち方等を示している。

### 総括

1年生では、文字に興味を持てるように「もじたんけんたい」・「しよしゃたいそう」などの準備ページがあり、書写の時間にもスタートカリキュラムを意識した作りになっている。「しよしゃたいそう」では、字を書くことはスポーツと同じで体を動かす事にも意識を向けるようにしている。また、低学年の教科書では特にイラストや写真を多用して楽しく取り組めるような工夫がされている。さらに、姿勢や鉛筆の持ち方についても定着を図れるように教科書の巻頭ページに記載されており、正しく整った文字を書くための決まりを守る大切さを意識づけている。

3年生から毛筆を使った学習が始まるが、「鉛筆→毛筆→鉛筆」のサイクルを意識している。毛筆で学んだ内容が、普段鉛筆で文字を書く時に還元される取り組みの流れができていく。また、3学年以上は毛筆の学習を中心にはしているが、手紙の書き方やノートを取り方など他教科の学習でも文字を書くことについて役立つ練習やポイントが記されている。さらに、書写とSDGsとの関わりを述べ、一緒に取り組めるように記載しているページもあり、環境への配慮にも意識を向けるようにしている。このことに関して、4年生ではSDGsブックも挟まれており、学齢に応じた内容を提示されている。

高学年では、文字を書く機会や量が増えてくるので、一文字の書き方から文や文章全体の書き方へと学習の重点が写っている。文字の書き方がおろそかにならないような意欲づけがされている。また、6年間の学習について、知識や技能をふり返り、日常生活で生かせるような学習が展開されている。さらに、書写のルールを踏まえて学習すれば、文字にも個性が出てくることを著名人の筆跡を例に示している。自分の文字の個性を捉え好きになり、文字を書くことを楽しめるように意識させている。

上記の理由とともに、本校の研究主題を進めるにあたって、最も適切であると考え、この教科書を選定したいと考える。

科目	算数
----	----

## 令和6年度使用教科用図書調査報告・選定理由報告書（一覧表） 小学校

観点	書名 新編 新しい算数	書名 わくわく算数	書名 新版 たのしい算数	書名 小学算数	書名 みんなと学ぶ 小学校算数	書名 小学算数
	発行者略称 東京書籍	発行者略称 啓林館	発行者略称 大日本図書	発行者略称 教育出版	発行者略称 学校図書	発行者略称 日本文教出版
観点	所見	所見	所見	所見	所見	所見
資質・能力の育成について	学習のゴール(単元末など)において、働かせた数学的な見方・考え方を言語化して明示的に価値づけたり、数学的な見方・考え方を介して既習と統合したり発展的に考えたりする学習展開を徹底し、数学的に考える資質・能力を育む深い学びを可視化している。	子どもたち一人ひとりが取り組める問題や教材が単元のはじめと終わりまで設定されている。協働的な学習と個別最適な学びを両立、日々の学習を通して、「学びに向かう力」を育むことができるよう構成されている。	算数のおもしろい問題やさまざまな話題を豊富に用意したコラムがあり、算数の興味関心を高める工夫がある。また、児童に意識させた、数学的な見方・考え方を「算数の大切な考え方」としてまとめている。	全巻を通じて、数学的活動の過程を「はてな?→なるほど→だったら!？」という問いの連続で構成し、主体的・対話的で深い学びが実現されるようにしている。	身近にある生活場面を取り上げて多様な考えやイメージを引き出せるような展開を多く取り入れている。他の教科書にない現代的な話題も取り上げている。日常の事象から問題を見つけ、算数を活用する意義を感じるようにしている。	基礎的・基本的な力の定着にむけて、これらを知識・技能として教え込むだけでなく、問題解決型の授業を通して育成できるように、各授業で使用できる「めあて」と「まとめ」の例が示されている。
学校の教育方針との関連について	既習の内容や育ってきた数学的な見方・考え方をもとに解決の見通しを持ち、論理的に、また、統合的・発展的に考察したり、解決の過程や結果を式や図、表などの数学的表現を用いて伝えあったりするなどの学習活動を積極的に取り入れている。	基礎基本の定着として、協働的な学びを通してわかったことの定着を個に応じて図ることができるよう、練習や復習のコーナーを設けてある。思考力の育成として、数量の関係や問題の条件に着目して解決する文章題を扱い、思考力のさらなる育成を目指している。	授業の進度や児童の習熟度に応じて、柔軟な使い方ができるように単元末の「たしかめ問題」に工夫がある。基礎基本を確認できるしっかりチェックのコーナーや色分けして、習熟度に応じて対応できる問題の種類も豊富に掲載している。	「毎時の学習」「単元のまとめ」「家庭学習」の各段階で、習熟を図るための練習問題を豊富に設け、基礎・基本となる学習内容が定着されるように工夫されている。また、学びの深まりを実感できるように、問いや考えの変容を振り返る場面が設けてある。	めあて、まとめ、つながり、発見とイラストで分けられており、児童の思考に寄り添った展開とすることで、知りたいことや考えてみたいことなどに主体的に取り組める構成になっている。算数パトロールという単元のとつながりをまとめたページがあり自分の理解度を認知するのに便利。	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、学習内容が焦点化され、学習の流れがより分かりやすくなるように全時間に「めあて」と「まとめ」を設けられている。また、「めあて」の近くには、筋道立てて考えたりするために「見方・考え方」着眼点が記載されている。
題材の選択とあつかい (どのような点を重視しているか)	日常生活や以降の学習に不可欠な基礎的・基本的なものを重視して取り上げている。記述・展開についても、問題解決学習のステップを重視し、丁寧さを重視している。	紙とデジタルの両立を目指している。コンテンツを操作しながらノートを書いたり、動画を見ながら友達を相談したり、コンテンツをヒントに自分の力で試行錯誤したりといろんなアプローチができるよう、工夫されている。	児童自身が問題や疑問を見出し、主体的に学習に取り組めるように題材を工夫している。数学的な見方・考え方を「算数の大切な考え方」で示している。学習感想を書く欄を設け、思考力・表現力を高める工夫をしている。	身近な題材から算数の問題を見いだしたり、既習事項を発展させて子ども自身が新たな問題をつくったりできるようにして、目的意識をもって数学的活動に取り組めるかを重視している。	多様な社会に対応するために、子ども達がいろんな側面からアプローチできるように、複数の考え方を提示している。	基礎力の育成のために、単元の初めに「次の学習のために」というページを設け、単元終了後に「わかっているかな」や「たしかめよう」といった復習の問題が設けられている。また、「算数マイルイ」が巻末についており、「しっかりチェック」→「ぐっとチャレンジ」→「もっとジャンプ」と個別最適な学びに対応している。
編集の工夫 (フォント、紙質、デジタル教科書、QRコード、One to Oneの学習の工夫など)	紙面への配慮は十分になされている。デジタル教科書に対応している。QRコンテンツは自社コンテンツで1450ある。また、個別最適な学びに対応している。	Society5.0を念頭に、新しい時代の学びを進めている。随所にQRコードがあり、協働的学びと、個別の学びができるよう工夫されている。また、家庭学習においても十分に発揮できる。	紙面上の配慮は、色分け、吹き出しなど見やすい工夫がされている。デジタル教科書に対応している。多言語パックがあり、外国にルーツがあり、多言語での翻訳を必要とする児童へも対応可能。	「まなびのリンク」という無償コンテンツでは、授業の導入に活用できるものや、シミュレーションできるもの、プログラミング、まとめアニメーションなどがある。	デジタル教科書に対応している。単元ごとにQRコードがついており、問題演習が自分でできるようになっている。また、デジタル教科書では、ルビ、反転機能、ノート機能、位表、包含用紙が搭載されている。	道徳科との関連性をもたせるために、問題解決の場面では、よりたくさんの考えを提示することで考えが深まるような工夫がされている。また、プログラミング的思考を全学年に導入することで段階的に学習することができるようになっている。
使用上の便宜 (別冊、書き込みなど)	練習問題は基礎的・基本的な内容に重点を置き、難易度も本文と同程度のもので構成、補充的・発展的な学習についても基礎的・基本的な内容をより確実に身につけたり深めたりできるように工夫し、柔軟に扱えるように配慮されている。	動画コンテンツは、6学年全体で100を超える。スライド、解説動画もあり、紙とデジタルの両立をめざした教科書であり、たとえ一人であってもしっかりと学ぶことができるようになっている。また、中にはタッチで動かすことのできるものもあり、図形などの理解も進むのではと思う。	個別最適な学びと協働的な学びを実現する紙面構成になっており、授業のイメージがしやすい記載になっている。ページをめくらないと解決方法や話し合いの様子が見えない工夫がしてあり、じっくり粘り強く考えられる工夫がされている。	「算数ワールド」のコーナーは、学習を終えた後のお楽しみコーナーとなっている。一人でもチャレンジできるように説明が工夫されている。その他のページも、思考の変容が分かりやすいように記載されている。	大きいタイトル以外に、細かいタイトルがあり、どんな勉強をしているかわかりやすい。図形を書く時のスペースが広いなど書き込みする際の工夫がされている。	各学年の巻頭のページには、学習の進め方が提示されており、前の学年の内容を題材にして、問題解決における視点を改めて、確認できるようにしている。また、問題解決型学習を進めることができるように、学びの4ステップとして、①課題把握②自力解決③集団解決④まとめ・練習という4つのステップが例示されている。
その他 (特筆すべき内容)	ICT活用(自社QRコンテンツ1450など)により学びを充実させることができる。また、既習の活用を促進し、自から次の課題を見出し解決していく力を育てる構成になっている。さらに、指導者用デジタルブックや授業支援ツールを活用した確認テストなどが充実しており、授業準備や教材研究が効率的に行える。	幼保小の接続ではスタートブックを用い、なめらかに接続できるように工夫されている。また、小中の接続では、算数で学習した内容を総復習し、どのように数学につながるかを紹介している。	他教科との関連を強化とのリンクマークを付け分かりやすく示している。既習の学習や以降の学習との関連菓子覚的に見やすいように工夫がしてある。	落ち着いたタッチのイラストを用い、学習に集中できるように配慮されている。また、子どもの想像力に働きかけ、内容の理解が促されるものになるように工夫されている。写真が効果的に使われているページが多く、手順が分かりやすい。	主な考え方をモンスターが表現する形で提示しているので、子ども達も取り組みに興味をもてる可能性がある。	出てくるイラスト等は、人権に配慮しており、性別や障がいの有無に関係なく、みんなて協力しているイラストになっている。

### 総括

本校でも推し進めようとしている「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、各単元の「プロローグ」や「いかしてみよう」を中心として、算数と生活との関連を重視した場面や活動が設定されている。また、児童が主体的に進められるように、「?」「まとめ」マークが付けられていたり、見通しや筋道立てて考えたための着眼点が「虫眼鏡」マークで示されていたりと、教科書を使い学びが深められるように工夫されている。また、One to Oneには欠かせないQRコンテンツが充実しており、指導者用のデジタルブックや授業者支援ツールにより授業準備や教材研究が効率的に行えるようになっている。内容の構成については、日常生活や以降の学習に不可欠な基礎的・基本的なものを重視して取り上げられており、記述・展開についても問題解決学習のステップが重視されている。以上の理由から東京書籍の新編「新しい算数」を選定する。

科目	社会
----	----

令和6年度使用教科用図書調査報告・選定理由報告書（一覧表） 小学校

	書名 <b>新しい社会</b>	書名 <b>小学社会</b>	書名 <b>小学社会</b>
	発行者略称 <b>東京書籍</b>	発行者略称 <b>日本文教出版</b>	発行者略称 <b>教育出版</b>
観 点	所 見	所 見	所 見
資質・能力の育成について	「学びのポイント」を示し、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」という学習段階をたどりながら小単元の学習が進められる構成になっている。 「時間」「空間」「相互関係」の3つの視点と「考え方」があり、どのような視点や方法を働かせればよいか明確にわかる。	見開き1ページを基本構成とし、それぞれのページに学習問題が書かれており、児童がそれを意識して学習を勧めやすい工夫がある。学習問題について考えるページでは、シンキングツールやまとめ方、深め方が例示され、資質・能力の育成に対する期待は大きい。資料が充実しており、1冊の情報量が充実している。	「つかむ・調べる・まとめる・つなげる」の構成を基本としている。見直しをもって学べるように、学習の問いなどのインデックスが用意されている。 「まとめる」では、さまざまなシンキングツールを活用したまとめ方が例示されている。
学校の教育方針との関連について	「まとめる」場面では、習得した知識を言語活動や図表にまとめる活動を通して整理できる工夫があり、かつ丁寧に例示されている。 「いかす」場面では、学んだことを今の自分や実社会に当てはめて考える工夫がみられる。	文字量が適切。資料の配置配色も見やすく作られている。ノートの例が多く載っているため、ノート指導も容易である。コラムに学習内容と関連する内容が展開されており、知識の幅を広げることができる。採り上げられている内容も、難しすぎない内容で適切。 一般的な資料が基本的に使用されており、どの教員にも扱いやすい。	文字資料が豊富であるが、その分大切なところとの差別化が図りにくいところとなっている。一般的な資料から専門性の高い資料まで展開されている。 絵や図表での配色にメリハリがなく、重点をとらえにくい。
題材の選択とあつかい (どのような点を重視しているか)	教科書は教科書、「載っていないものは資料集で」というづくり（5年） →工業などは、複雑化を避け、シンプルさを意識した構成としている	資料を豊富にし、より多い資料で理解させようというづくり（5年） →情報量が多く、ポイントのつかみにくさも感じる。	文字情報が豊富で、一般的な資料から専門性の高い資料まで展開されている。（5年） →大切なところとの差別化が図りにくいところとなっている。
編集の工夫 (フォント、紙質、デジタル教科書、QRコード、One to Oneの学習の工夫など)	フォントはUDフォントを採用。 現行の教科書に比べてページ数を減らしているため、資料や文字は必要なものを厳選して載せている（その分教科書の情報量は少ない）。図表もシンプル。ページの構成上から一部は文字を小さくしていたりしている。	ページの中心に文章を、サイドに図表や語句の説明を入れることで、説明がコンパクトに見やすくまとめられている。 フォントはUDフォントを採用。キーワードはゴシックにして目立たせている。	過去の白黒写真を復元したカラー資料を使用している。 フォントはUDフォントを使用している。 多くの情報（資料・文字）が載った構成となっている。
使用上の便宜 (別冊、書き込みなど)	5・6年生の教科書は、2冊に分冊。 「まとめる」場面では直接書き込んで考えをまとめられるようにしているところもある。	各学年1冊で構成され、分冊されていない。未来につなげるというコーナーがあり、SDGsの視点が学習内容のこういったところとつながっているのかを考えられるようにしている。	各学年1冊で構成され、分冊されていない。 「つかむ・調べる・まとめる・つなげる」のどの学習をしているのか、教科書に明記されていて把握しやすい。 「調べる・考える」の取り組みの順番を、視覚的に明示している。
その他 (特筆すべき内容)	教科書単体としては最低限の内容。その分、何を追加するかは教師側の選択の幅が広い。本校のように中学入試問題を解くことを意識する場合は、この形式はありがたい。ただし、教師側の力量が問われることとなる。	図版資料が多く（特に低学年）、統計資料は少なめ（特に5年）。よって、3-4年の社会科導入時には多くの図版で分かりやすいつくりになっているが、高学年になると少し物足りない内容となっている。	教科書1冊で資料集などがなくてもすべてをまかなうかのようなつくりになっている。社会科に慣れていない人でも教科書内容のみを丁寧にみれば成り立つ内容。それだけに、入試対応などを入れる余地はあまりない。

総括

本校の社会科は、最後に中学入試が控えているため、教科書内容だけでは不足してくる。つまり、教科書内容は当然として、そこにいかに中学入試内容を加えていくかがポイントになる。この点を考えると、教育出版は教科書内容が多すぎて、融通が利かない。東京書籍と日本文教出版とでは、一長一短でこの点については甲乙つけがたい。ただ、東京書籍の「まとめ いかす」のページは児童に単元の視野を深めやすいつくりになっている点、また、5年の教科書での統計資料の質・量とも東京書籍の方が優れている点なども含めて、今回の採択では東京書籍のものとした。

科目	地図
----	----

令和6年度使用教科用図書調査報告・選定理由報告書（一覧表） 小学校

	書名 小学生の地図帳	書名 新しい地図帳
観 点	所 見	所 見
資質・能力の育成について	地図帳導入期の3年生が地図の有用性を理解し、地図活用の技能を身につけやすいように、大きくページを割いている。内容も理解しやすいつくりとなっている。必要な情報が載りつつも、情報量を精査し、すっきりとしたつくりとなっている。	地図の有用性を理解し、地図活用の技能を身につけるページのつくりは、情報量が多く、ポイントをおさえにくい印象をもつ。 一方で、統計資料や特産品などの情報量は豊富で、東京書籍の教科書と連動させて扱いやすい構成となっている。
学校の教育方針との関連について	必要な情報をすっきりと解りやすく記載した地図帳となっているため、扱いやすい。情報量は少ないように見えるが、今日的な内容も採り上げられており、精選された情報がのる地図帳となっている。	教科書との関連性も高く、資料集的要素が強い構成となっている。そのため、教科書から地図帳への誘いの強いつくりとなっている。良くも悪くも情報量の多い地図帳となっている。
題材の選択とあつかい (どのような点を重視しているか)	日本の自然災害と防災について4ページにわたって扱い、地図を用いた防災教育が可能。 日本・世界の食料問題（自給率や食品ロス）の統計資料もあり、SDGsの視点も取り入れられている。歴史学習との結びつきのため、江戸の五街道が載るページを作っている。 世界の統計は、主な言語がない代わりに、日本との輸出入額や品目が記載されている。	日本の気候を扱うページでは雲の衛星写真を載せ、季節風を視覚的にとられる工夫をしている。工業分野では、「生産額」や「分布」、「図表」を豊富に載せつつも、丁寧に区切って豊富な資料を見やすい工夫をしている。 日本の歴史に関するページは4ページとり、世界との関りや領土変遷が見て取れる。
編集の工夫 (フォント、紙質、デジタル教科書、QRコード、One to Oneの学習の工夫など)	A4判、UDフォント使用。縮尺はものさしで示している。また、関連コンテンツを閲覧できるように二次元コードを掲載している。 地図・写真を鮮明に表現するために多色刷り（5色）にしており、色の選び方も含めて、柔らかい色調となっている。 学習者用デジタル教科書は発行されている。	A4判、UDフォント使用。縮尺はものさしで示している。また、関連コンテンツを閲覧できるように二次元コードを掲載している。 地図は濃い色調で土地や海底の高低差が強調された色調になっている。 教師用指導書に指導者用デジタルブックがあり、学習者用デジタル教科書も発行されている。
使用上の便宜 (別冊、書き込みなど)	地図帳単体としての仕上がりは素晴らしく、地図帳のみでの授業も可能。地図の使い方の説明の部分で書き込みスペースあり。	地図帳単体というよりは教科書とセットで使える部分がみられる。地図の使い方の説明の部分で書き込みスペースあり。
その他 (特筆すべき内容)	『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』の特設Webサイトが開設された。ここでは、様々な地図を活用した学習コンテンツが示され、授業でも有効に使用できる。	今のところ、特にこうしたコンテンツが配信されたりすることはない。
<b>総括</b> <p>帝国書院の地図帳は、長年の経験が十二分に生かされ、地図帳としての完成度は非常に高い。何が、とはっきりしないところでも配慮がなされており、2つの地図帳を並べて比べたときに、その差が浮かび上がってくる。また、東京書籍の地図帳は、教科書を補完するものとしてのつくりになっている点も、差のあるところである。ただ、東京書籍は、デジタル化を含めた新しい形のを求めたときに、組織力の差が出てくるかもしれない。つまり、現状では帝国書院の地図帳に適うものはないが、今後、5年10年と東京書籍が経験を積んでいけば、デジタルコンテンツを中心として逆転する可能性を否定することはできない。</p>		

科目	理科
----	----

## 令和6年度使用教科用図書調査報告・選定理由報告書（一覧表） 小学校

	書名 みんなと学ぶ 小学校 理科	書名 わくわく理科	書名 新しい理科
	発行者略称 学校図書	発行者略称 啓林館	発行者略称 東京書籍
観 点	所 見	所 見	所 見
資質・能力の育成について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えの道筋や実験の流れが視覚的に構成されている。</li> <li>・「考えよう調べよう」で、考えの伝え方やノート等の記録の仕方を掲載している。</li> <li>・巻頭で、「理科の見方・考え方」を問題解決の過程でどのように働かせるかを示している。</li> <li>・「考えよう調べよう」でICT端末の活用例や情報モラルを掲載している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えの道筋や実験の流れが視覚的に構成されている。</li> <li>・巻末で、ノートのまとめ方や伝え方等を掲載している。</li> <li>・巻頭や巻末で「理科の見方・考え方」を、巻末で日常生活における見方・考え方が役立つ場面を紹介し、単元内の「理科の見方・考え方」にマーカーを付している。</li> <li>・「学びの中でICTを活用してみよう」では、ICT端末の活用例や情報モラルを示している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えの道筋や実験の流れが視覚的に構成されている。</li> <li>・「理科の調べ方を身につけよう」で、ノートの書き方、発表の仕方、話し合いの仕方が掲載されている。</li> <li>・「理科の見方・考え方」をイラストとともに示している。</li> <li>・巻頭の「コンピューターを学習に生かそう」では、様々な場面での使い方や、情報モラルが動画等で、巻末の「コンピューターの使い方」では、活用例が掲載されている。</li> </ul>
学校の教育方針との関連について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的な学びを実現するために、単元の導入の「問題を見つけよう」で、問題を見いだすための写真を掲載したり活動を設定したりしている。</li> <li>・深い学びを実現するために、学んだことを生かした活動に、「活用 学びを生かそう」のマークを付している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的な学びを実現するために、単元の導入の「問題をつかもう」で、問題を見いだすための写真を掲載したり活動を設定したりしている。</li> <li>・深い学びを実現するために、「理科の広場」で、学んだことを生かした活動を設定している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的な学びを実現するために、単元の導入の「レッツトライ！」で、問題を見いだすための写真を掲載したり活動を設定したりしている。</li> <li>・深い学びを実現するために、「広げよう！理科の発想」で、学んだことを生かした活動を設定している。</li> </ul>
題材の選択とあつかい (どのような点を重視しているか)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見えない力や粒子などを視覚化しながら考え、そのことを根拠として問題提起や結果の予想を行うことで、科学的な見方、考え方の育成を重視している。</li> <li>・裏表紙で学習した単元とその内容に関連したSDGsの目標を、「もっとしりたい」でSDGsに関連した資料にマークを付している。</li> <li>・単元内の活動とともに「もっとしりたい」で防災教育に関わる資料を掲載している。</li> <li>・6年にプログラミングの活動を掲載している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元末の学習内容の一般化において、先進的な取り組みや生活につながる取り組みを多彩に取り扱っている。</li> <li>・単元内のSDGsに関連する題材には目標のマークを付し、「わくわくSDGs」で説明を掲載している。</li> <li>・単元内の活動とともに「ウィズアース」を設け、防災教育に関する資料や活動を掲載している。</li> <li>・3～5年でプログラミングの体験を、6年でプログラミングの活動を掲載している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻末に、SDGsの目標とSDGsに関連する学習内容を掲載している。</li> <li>・単元内の活動とともに「理科の世界探検部」で、防災に関する資料を掲載している。</li> <li>・各学年の巻末に、学んだことを生かしたプログラミングの活動を掲載している。</li> </ul>
編集の工夫 (フォント、紙質、デジタル教科書、QRコード、One to Oneの学習の工夫など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フォント、配色等に児童が見やすくなる工夫がされている。</li> <li>・二次元コードで実験や道具の使い方などの動画が多く用意されている。</li> <li>・単元導入の二次元コードで関連した既習事項をふり返ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フォント、配色等に児童が見やすくなる工夫がされている。</li> <li>・二次元コードで実験や道具の使い方などの動画が非常に多く用意されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フォント、配色等に児童が見やすくなる工夫がされている。</li> <li>・二次元コードで実験や道具の使い方などの動画が多く用意されている。</li> </ul>
使用上の便宜 (別冊、書き込みなど)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A B判。</li> <li>・指導時期を考慮した単元配列になっている。</li> <li>・巻頭で問題解決の過程とその学年で付きたい力を、巻末に1年間どのような力が付いたかを確認する一覧が掲載されている。</li> <li>・各単元で学んだことの習得状況を確認する問題をCBTで設けている。</li> <li>・観察・実験のページでは動画や資料を閲覧できるようにするなど、関連箇所に二次元コードを掲載している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A B判。</li> <li>・指導時期を考慮した単元配列になっている。</li> <li>・巻頭の「理科の楽しみ方」では、問題解決の過程や、その学年で重視する問題解決の過程を「ココが大切！」で示している。</li> <li>・学んだことの習得状況を確認する問題を単元末に、CBTの問題を巻末に設けている。</li> <li>・観察・実験のページでは動画や資料を閲覧できるようにするなど、関連箇所に二次元コードを掲載している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A 4判。</li> <li>・指導時期を考慮した単元配列になっている。</li> <li>・巻頭の「理科の学び方」で問題解決の過程や、その学年で付きたい力を示している。</li> <li>・各単元で学んだことの習得状況を確認する問題を単元末やCBTで設けている。</li> <li>・観察・実験のページでは動画や結果を書き込めるデジタルワークシート等を置くなど、関連箇所に二次元コードを掲載している。</li> </ul>
その他 (特筆すべき内容)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対話的な学びを実現するために、「予想」等で、キャラクターの対話場面を示している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対話的な学びを実現するために、「予想と計画」等で、キャラクターの対話場面を示している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対話的な学びを実現するために、「予想しよう」等でキャラクターの対話場面を示している。</li> </ul>

### 総括

学習の導入がシンプルであり、分かりやすい。また、実験の設定も子どもの素朴概念に基づいた、他社にはないものが設定されており、科学的に物事を見る力が効果的に身につくと考えられる。予想する段階、考察する段階ではイメージなどをアウトプットすることで、視覚的に考える項目が多くみられる。そのため、科学的な見方や考え方を追究したり、他者と意見を交流したり、根拠をもとに思考しやすい構成になっており、科学的かつ主体的な学習が引き出されるように感じる。生活とのつながりにおいても、単元の学習内容がどのように活用されているのかを分かりやすく紹介されており、また、SDGsの何とつながっているのかわかりやすく、児童にとっても学びの系統性がわかりやすい。

科目	音楽
----	----

令和6年度使用教科用図書調査報告・選定理由報告書（一覧表） 小学校

観点	所見	所見
	書名 音楽のおくりもの	書名 小学生の音楽
	発行者略称 教育出版	発行者略称 教育芸術社
資質・能力の育成について	歌唱分野では、1年は交互唱、2年は輪唱やパートナーソング、3年以上は部分合唱、二部合唱と系統的に学習できる構成となっている。音楽を形づくっている要素を「音楽のもと」として各見開きに示している。	歌唱分野では、1年は交互唱、2年は輪唱やパートナーソング、3年はオスティナート唱、4年はパートナーソング、5年以上は合唱と系統的に学習できる構成となっている。音楽を形づくっている要素を中心に、各教材を結び付けて題材が構成されている。
学校の教育方針との関連について	見開きごとに、「思考力、判断力、表現力等」「知識及び技能」に関わる内容を意識できるよう「マナビナビ」を設けている。対話を通して協働的に学習を進められるような活動例を示している。	教材ごとの活動文に、「思考力、判断力、表現力等」「知識及び技能」に関わる内容を意識しながら学習を進められるよう、マークを付している。活動方法や学習のヒントを吹き出しに示している。
題材の選択とあつかい (どのような点を重視しているか)	明確な学習のめあてのもと、主体的な学習が引き出されるように扱いが工夫されている。学習のめあてや教材曲、学習活動に即した児童への助言、解説が適切になされており、写真・図版等も学習内容に応じ、児童の興味・関心を引き出すものとなっている。	題材は学習指導要領に示されている低・中・高の各学年の目標及び内容を踏まえて構成されており、各学年、全学年を通して系統的・発展的に組織されている。
編集の工夫 (フォント、紙質、デジタル教科書、QRコード、One to Oneの学習の工夫など)	色覚等への特性をふまえた判読しやすい配色やレイアウト、表現方法、UDフォントの使用など、細部にわたり配慮がなされている。教材に関連した二次元コードを掲載している。奏法や解説動画・音源・ワークシート・解説資料が多数ある。	UDフォントを全編に使用し、色覚特性をもつ子どもたちへ配慮している。楽譜や文字の大きさは、児童の発達段階に応じて設定されており、見やすさ読みやすさが配慮されている。
使用上の便宜 (別冊、書き込みなど)	学習の見通しを立て、学習を進めるための「学習マップ」を設けている。見開きごとに学習のめあてや教材に関連した音楽を形づくっている要素を掲載している。既習事項のふり返りや関連資料のページ等をマークで表示している。	年間を通した学習の見通しをもてるよう、「学習マップ」を設けている。題材の具体的な目標、学習の目当てや教材に関連した音楽を形づくっている要素を掲載している。関連資料等をマークで示し、題材の中で学習したことをまとめた「学習のまとめ」を設けている。
その他 (特筆すべき内容)	教師用指導所セットでデジタル朱書編等（データ配信版）が提供される。	
<p><b>総括</b></p> <p>学習のめあてが明確であり、教材も児童の興味・関心に配慮されており、主体的な学習が引き出されるように感じる。教科書に示されている、学習内容や活動内容は簡潔かつ適切な内容であり、児童の気づきや工夫を導き出しやすい。鑑賞教材は、題材のねらいに即しつつ、音楽を形づくっている要素が聴き取りやすく、自己のイメージと結び付けやすいような教材が選択されている。学習指導要領に示された指導すべき内容に適した教材が集められ、曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解しやすい教材や、各技能が無理なく身につくような教材が配置されている。</p>		

科目	図画工作
----	------

令和6年度使用教科用図書調査報告・選定理由報告書（一覧表） 小学校

	書名 ずがこうさく	書名 ずがこうさく1・2 上わくわくするね／下みつけたよ 図画工作3・4 上できたらいいな／下力を合わせて 図画工作5・6 上心をひらいて／下つながる思い
	発行者略称 日本文教出版	発行者略称 開隆堂
観 点	所 見	所 見
資質・能力の育成について	表現と鑑賞を往還しながら知識や技能の習得を助けるために、表現や鑑賞のヒント、発送や構想のヒントが示されている。 活動を通して感じた一人一人の気づきを大切に、今後に生かすことができるよう、各題材に「ふりかえり」を設けている。	各資質・能力に対応したキャラクターが活動のポイントや造形的な見方・考え方をアドバイスしている。「学習のめあて」を受けてどのような資質・能力を身につけたか確認できるよう「ふりかえり」を設けている。
学校の教育方針との関連について	主体的に学び、自分の主題を見つけ、志を高く持って学びに臨んで欲しいという願いにつながるように、多くの作品や試行錯誤する様子の写真が掲載されている。教科書の活動例や作品から感化され、児童が試しながら自分の表現につなげていきやすいと期待できる。	主体的な表現活動につながる活動を紹介した「ひらめきショートチャレンジ」を設けている。創造性を培うことの大切さや主体的に活動することを促すために巻頭ページに多様な人々が造形に関わる姿を掲載している。
題材の選択とあつかい (どのような点を重視しているか)	一つの作品において、一方方向の写真掲載だけでなく多方面からの見方や、一部を大きく見せているなどの工夫から、児童に確かな技術力と想像力を高められることが期待できる。また、社会につながる学びとしてSDGsの内容や廃材を再利用した作品を紹介する「広がる図工」を設けるなどがある。	国際交流や福祉等に関する内容を取り上げた「つながる造形」を設けている。地域の特徴やよさ、伝統工芸などを生かした造形活動を「みんなのギャラリー」で紹介している。
編集の工夫 (フォント、紙質、デジタル教科書、QRコード、One to Oneの学習の工夫など)	学習のめあてに対応した表現のヒントと鑑賞のヒントを提示している。巻末に「材料と用具のひきだし」として使い方をまとめ、絵や動画でも解説している。ゴシック調のUDフォントを使用している。QRコードを読み取ると、作品の写真を拡大してみることができる。	学習の3つのめあてに対応した各キャラクターが学習のヒントを提示している。掲載作品に番号を示している。丸みのあるUDフォントを使用している。
使用上の便宜 (別冊、書き込みなど)	活動や材料・道具の写真が豊富で参考資料としても使いやすい。巻末には、学齢に応じた各道具や材料の使い方が写真と用途説明とともに丁寧に紹介されている。 付属のアートカードも充実しており、鑑賞学習や制作におけるつながりを持たせやすい。	題材ページの左上に、活動で使用する材料・用具をアイコンと文字で示している。教材と関連する作品や動画、ワークシート等を掲載するウェブページへの二次元コードを題材ごとに設けている。
その他 (特筆すべき内容)	教師用指導書やアートカード・その解説など多くの資料があり、授業研究に教員が撮り組みやすい。	
<p>総括</p> <p>多くの題材紹介があり、それに基づいて多くの活動内容や作品例の写真が掲載されている。一つの題材から一つの表現方法しか道筋が無いというのではなく、めあてをおさえつつ、多くのことを試して自分の主題を見つけてよいという児童の興味・関心・意欲をかき立てる工夫がされている。学齢に応じて適切に道具・材料の説明がされており、学習指導要領に示されている指導すべき内容をおさえられるようになっている。</p> <p>図画工作の学びの根幹である「楽しい！」と思う気持ちを引き出す工夫がされているので活用しやすい。</p>		



科目	保健
----	----

## 令和6年度使用教科用図書調査報告・選定理由報告書（一覧表） 小学校

	書名 小学保健	書名 新版 たのしい保健	書名 新編 新しい保健
	発行者略称 光文書院	発行者略称 大日本図書	発行者略称 東京書籍
観 点	所 見		
資質・能力の育成について	学習内容に関するデジタル教材や動画などを用いて身近な生活における健康・安全についての基礎的な知識や技能だけでなく、健康を保持増進するための情報を活用し、課題解決する力を身につけさせ、ワークシート形式を用いて健康や安全の大切さを認識し、健康で楽しく明るい生活を営む態度を養うような構成。また教科横断的な学習ができるよう、他学年や他教科との関連を言葉とマークで示している。	二次元コードを活用したシミュレーション画像や動画、アニメーションなどを用いて身近な生活における健康・安全についての基礎的な知識や技能だけでなく、健康を保持増進するための情報を活用し、課題解決する力を身につけさせ、健康や安全の大切さを認識し、健康で楽しく明るい生活を営む態度を養おうとしている。また教科横断的な学習ができるよう、他学年や他教科との関連を言葉とアイコンで示している。	二次元コードによる学習内容に関するシミュレーション画像や動画、ワークシートなどを用いて身近な生活における健康・安全についての基礎的な知識や技能、健康を保持増進するための情報を活用し、課題解決する力を身につけさせ、ワークシート形式を用いて健康や安全の大切さを認識し、健康で楽しく明るい生活を営む態度を養おうとしている。また教科横断的な学習ができるよう、他学年や他教科との関連を言葉とマークで示している。
学校の教育方針との関連について	見通しをもって学習できるよう、「みつけよう」「調べよう」「考えよう」「話し合おう」「やってみよう」「生かそう」という学習過程で、自らの生活をふり返って課題を見つけ、課題解決に向けて学習活動をおこない、まとめたことを自分の生活に生かしていくことで、たくましく生きる力を育むという教育方針に沿った流れになっている。	学習の進め方について、「つかもう」「考えよう」「話し合おう」「調べよう」「活かそう」という学習過程で、自分の生活のふり返り、課題をつかみ、活動を通じて課題解決に向かい、学習したことをまとめ、活用して深めていくような、たくましく生きる力を育むという教育方針に沿った流れになっている。	学習の進め方について、課題に対して、「気付く・見つける」、「調べる・解決する」、深める・伝える、まとめる・生かす、という4つのステップを通じて課題解決を目指し、最後に学習をふり返る、という点で、たくましく生きる力を育むという教育方針に沿った流れになっている。
題材の選択とあつかい (どのような点を重視しているか)	各単元において、児童が「主体的・対話的で深い学び」を実現できるように学習課題をつかみ、課題解決に向けて学習活動を行い、学習した内容を自分の生活に実現できるように構成されている。また、手の洗い方や換気の仕方、健康の保持増進と体力の向上の運動例、またスマートフォンと睡眠の関係性などを取り上げ、現代的な課題にも対応する力を養う工夫がされている。	各単元において、児童が「主体的・対話的で深い学び」を実現できるように学習課題をつかみ、課題解決に向けて学習活動を行い、学習した内容を自分の生活に実現できるように構成されている。また、手洗い・換気の仕方、健康の保持増進と体力の向上の運動例、また情報機器の操作と目の健康や睡眠の関係性などを取り上げ、現代的な諸課題にも対応する力を養う工夫がされている	児童が「主体的・対話的で深い学び」を実現できるように学習課題をつかみ、課題解決に向けて学習活動を行い、学習した内容を自分の生活に実現できるように構成されている。また、手の洗い方や換気の仕方、健康の保持増進と体力の向上の運動例、また歩行中のスマートフォン操作の危険性などを取り上げるなど、現代的な諸課題にも対応する力を養う工夫がされている
編集の工夫 (フォント、紙質、デジタル教科書、QRコード、One to Oneの学習の工夫など)	UDフォント。 カラーユニバーサルデザインに配慮。 特別支援が必要な児童に配慮した内容や構成。QRコードで読み込むデジタル教材の内容が充実している。	UDフォント。 環境に配慮した紙・植物油インキ。 表紙に丈夫で汚れにくい加工。光触媒を利用した抗菌・ウイルス処理。	UDフォント。 色覚特性に適應するデザイン。 軽量紙。 再生紙・植物油インキ。
使用上の便宜 (別冊、書き込みなど)	ワークシート形式で、課題解決に向けて、思考・判断・表現したことを書き残すことができるよう、また、学習したことをまとめ、自身の生活や今後の学習に生かすために自分の考えを記入する欄を設けている。	課題解決に向けて、思考・判断・表現したことを書き残すことができるよう、また、学習したことをまとめ、自身の生活や今後の学習に生かすために自分の考えを書き込む記述欄を設けている。	課題解決に向けて、思考・判断・表現したことを書き残すことができるよう、また、学習したことをまとめ、自身の生活や今後の学習に生かすために自分の考えを記入する欄を設けている。
その他 (特筆すべき内容)	新型コロナウイルス感染症に関する内容や、教材の資料として心の悩みを相談する連絡先等を掲載している。著名人による健康についてのメッセージを掲載し、学習内容が児童の成長にとって重要であることを伝えている。	切り取って常に携帯できる緊急時通報用の折り込みカードがついている。新型コロナウイルス感染症に関する内容や、教材の資料として心の悩みを相談する連絡先等を掲載している。	新型コロナウイルス感染症に関する内容や、教材の資料として心の悩みを相談する連絡先等を掲載している。

### 総括

学習指導要領に示されている教科及び学年の目標・内容に沿って、極めて適切なものが選択されている。

学習の課題やめあてに対して、自ら考え、調べ、グループで意見交換し、クラス全体で共有して課題解決に向かい、そして最後に学習をふり返って自分自身を見つめ直し未来に生かす、という本校の学習の流れに合致する内容である。

単元内容が他学年や他教科とのつながりも示されているので、既習事項を活用してさらに学びを深めることができるなど、健康な生活を実践するためには、さまざまな教科の学びを生かす必要性を感じられるように配慮されている。

従来の基本的な課題に加え、感染症やスマートフォンやSNS、ゲーム依存症など、現代の社会情勢や今の児童に大きくかわる諸課題についても詳しく取り上げられている。

また、授業や調べ学習の際に活用するQRコードを利用した資料動画や参考資料の情報量が非常に豊富かつ詳細に至ることが、児童の深い学びにつながるという観点で大きな要素となった。

以上の理由から、光文書院の「小学保健」を採択します。

科目	生活
----	----

令和6年度使用教科用図書調査報告・選定理由報告書（一覧表） 小学校

	書名 わくわく せいかつ	書名 みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ	書名 せいかつ たんけんたい	書名 新版 あたらしい せいかつ	書名 せいかつ たんけんたい
	発行者 啓林館	発行者 学校図書	発行者 光村図書	発行者略称 東京書籍	発行者略称 教育出版
観 点	所 見	所 見	所 見	所 見	所 見
資質・能力の育成について	活動や体験を通して、自分自身や自然のかかわりに気づき、生活上必要な習慣・技能を身につけることができる内容となっている。	見える→つながる→広がるを意識した構成となっている。	身近な人々、社会及び自然を自分のかかわりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができる構成となっている。	活動のめあてと育成を目指す資質・能力について授業のイメージがしやすい。	動機付け→自己決定→自己肯定感（ふり返り）→メタ認知（何ができるようになったか）の構成で学びを深める取り組みがなされている。
学校の教育方針との関連について	国語や算数、図工、学級活動などの他教科とのつながりが意識された構成がなされている。 理科の「ものの性質」「栽培活動」、社会科の「くらし」「地理的な広がり」などの活動を網羅したカリキュラムが組まれている。	国語や算数、学級活動などの他教科とのつながりが意識された構成がなされている。	国語を主とするほか、算数などの他教科とのつながりが意識された構成がなされている。 理科・社会の学習に通ずる「導入・展開・ふり返り」の学習プロセスを軸として内容が展開されている。	国語や算数などの他教科とのつながりが意識された構成がなされている。 理科的・社会的なものの見方・考え方につながる姿が挿絵や吹き出して掲載されている。	国語や算数、図工などの他教科とのつながりが意識された構成がなされている。 「はってん」コラム等で中学年以降の学習につなげている。
題材の選択とあつかい (どのような点を重視しているか)	一つの題材の中で先を見通せるような記述がされている。生活科で重要な「気づき」に重点を置いている。 育てたい資質・能力を具体的な姿でとらえる工夫がされている。	ふり返りと表現活動を重視している。	こまめなふりかえり活動をはじめ、説明文や感想文などの文章作成や、伝えあいなどの国語的活動に重点を置いている。	学習内容や発達段階に応じた方法・内容を例示し、ふり返りと表現活動を重視している。	ふり返りと表現活動を重視している。 学習の動機付け、めあて等活動の目標を明確にすることを重視している。
編集の工夫 (フォント、紙質、デジタル教科書、QRコード、One to Oneの学習の工夫など)	QRコードがついている。UDフォント採用。カラーユニバーサルデザイン採用。 デジタル探検ブックがあり、調べ学習や写真撮影を活動にスムーズに取り入れられる。	QRコードがついている。UDフォント採用。カラーユニバーサルデザイン採用。	他社の教科書の紙質と異なり、ざらざらしている。カラーユニバーサルデザイン採用。 QRコードがついている。 UDフォント採用。	QRコードがついている。UDフォント採用。カラーユニバーサルデザイン採用。 クイズや動画が充実している。	QRコードがついている。UDフォント採用。カラーユニバーサルデザイン採用。 デジタル図鑑とワークシートつき。
使用上の便宜 (別冊、書き込みなど)	発表の仕方などの、具体的な技能面からの記述が豊富。 スタートカリキュラムが充実している。	別冊資料付き デジタル教科書付き	別冊資料付き（図鑑）	別冊資料付き（図鑑）	別冊資料付き（図鑑）
その他 (特筆すべき内容)	挿絵にダイバーシティが意識されていた。（車いす児童、外国籍児童等） サイズが小ぶり（縦の長さがB5）で、机上で見ながら作業ができる。 マルチリンガル教科書アプリに対応。 授業内活動で、ソーシャルスキルトレーニングに関する資料が掲載されている。	挿絵にダイバーシティが意識されていた。（車いす児童、外国籍児童等） A4サイズ。	人気絵本作家ヨシタケシンスケによる描きおろしイラストを採用。 挿絵にダイバーシティが意識されていた。（車いす児童、外国籍児童等） A4サイズ。	写真が多い。 挿絵にダイバーシティが意識されていた。（車いす児童、外国籍児童等） 前回採用した会社である。 A4サイズ。	人気キャラクターのこんがらガッチの描きおろしイラストを採用。 挿絵にダイバーシティが意識されていた。（車いす児童、外国籍児童等） A4サイズ。

総括

- ・サイズが小ぶりで教科書を見ながら机上で観察や工作などの作業ができる点
- ・発表の仕方などの具体的な技能面からの記述が豊富である点
- ・理科社会との連携のほか、国語・算数・図工・特別活動などの他教科とのつながりが意識された構成がなされている点
- ・「気づき」という生活科の重要な観点をとらえることを重視している点

以上のことから啓林館の教科書を採用することにメリットが大きいと考えたため、選定した。

科目	家庭科
----	-----

令和6年度使用教科用図書調査報告・選定理由報告書（一覧表） 小学校

観点	所見	所見
	書名 わたしたちの家庭科	書名 新しい家庭
	発行者略称 開隆堂	発行者略称 東京書籍
資質・能力の育成について	単元の導入部で必ず「なぜ調理するのだろう」など疑問形のタイトルがつけられており、児童の興味をひきつける。考えた疑問を解決できるような学習の配列になっている。気づく→分かる→生かすの3ステップでまとめられている。	課題発見、課題解決、評価改善とステップを3段階に分けて学習をすすめている。さらに3段階のほかに、「生活を変えるチャンス!」というコーナーが設けられており、考えるきっかけをあたえている。
学校の教育方針との関連について	「深い学び」に関わって、学習後にその学びが生活にどう生かせるかを考えさせるページが多く取り入れられている。見通しを持たせやすい。	「主体的な学び」に関わって、「生活を変えるチャンス!」というコーナーが学習の最後に組み込まれており、自宅で子どもが取り組もうとする意識を高めるものになっている。
題材の選択とあつかい (どのような点を重視しているか)	環境を意識したコラムなどが多く掲載 SDGsについても明記されている。  卵に関する学習のページでは、食物アレルギーについてのコラムを掲載するなど、今までよりも大きく扱っている。	包丁の使い方やミシンの使い方などは、単元内に掲載のほか、裏表紙近くにまとめられている。 アレルギーに関しては、はじめのページに少しふれられている程度。
編集の工夫 (フォント、紙質、デジタル教科書、QRコード、One to Oneの学習の工夫など)	教科書の大きさはA4、紙質は少しざらついている。全153ページ。UDフォント使用。 ほぼ全ページにQRコードが印刷されており、対応した学習をおこなうことができる。 見開きページで横に連続して読ませたい内容には、色がつけられており、読みやすい。	教科書の大きさはA4、紙質はよくある手触り。全149ページ。UDフォント使用 ほぼ全ページにQRコードが印刷されており、対応した学習をおこなうことができる。
使用上の便宜 (別冊、書き込みなど)	裏表紙に野菜の切り方、皮のおきかたがカラー写真でのっている。また、スケールも印刷されており、多用しやすい。	裏表紙裏に地域の料理を掲載そのとに食品のグループ分けが掲載されている。
その他 (特筆すべき内容)	卵の学習ページに食物アレルギーに関する説明とコラムがのっている。 「生活の中のプログラミング」というページで家事（炊飯・洗濯・掃除）の手順についてかんがえさせるページがある。 防災に関わるページがとられており、生活との関わりを感じることができる。	プログラミング関連の内容について多くふれている。 QRコードから見る動画はNHKで作成したものを見ることができる。
総括	<p>どちらの教科書会社も学習のサイクル（気づく（課題発見）→分かる（課題解決）→生かす（評価・改善））が組み立てられているが、開隆堂の方が課題発見のところが「なぜ調理するのだろう」など疑問形のタイトルがつけられており、児童の興味をひきつけ、自身の課題を設定しやすいと考えられた。また、アレルギーやプログラミング、防災に関する扱っても丁寧で、分かりやすい。また、見開きページで大きく手順を示す際にもカラーリング等で工夫されていてみやすく、資料として教科書を使用しやすいと考えられる。</p>	

科目	道徳
----	----

令和6年度使用教科用図書調査報告・選定理由報告書（一覧表） 小学校

観点	書名 生きる力	書名 新しい道徳	書名 きみがいちばんひかるとき	書名 ゆたかな心	書名 みんなの道徳	書名 はばたこう明日へ
	発行者略称 日本文教出版	発行者略称 東京書籍	発行者略称 光村図書	発行者略称 光文書院	発行者略称 学研	発行者略称 教育出版
資質・能力の育成について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻頭に内容項目をまとめた「道徳のとびら」と、授業での学び方についてまとめた「道徳の学び方」を設けている。</li> <li>・いじめを間接的に扱った教材と直接的に扱った教材、いじめ防止コラムを組み合わせたユニット「人との関わり」を、全学年に年間3回、設定している。</li> <li>・「福祉」「平和・人権教育」「キャリア教育」「防災教育」等の現代的・社会的課題を扱った教材を掲載している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻頭に内容項目をまとめた「何を学ぶのかな」と、道徳の学び方についてまとめた「どんな学びをするのかな？」を設けている。</li> <li>・いじめを直接的に扱う教材と間接的に扱う教材、いじめに関するコラムを組み合わせたユニット『いじめ』について、考えよう」を、全学年に設定している。</li> <li>・全学年に、「安心・安全」「生命尊重」「自己肯定感」などの課題について、ユニットとして掲載している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻頭に内容項目をまとめた「道徳のとびら」と、授業での話し合い方等についてまとめた「道徳がはじまるよ」を設けている。</li> <li>・いじめについて扱った2つの教材とコラムを組み合わせたユニット「いじめを許さない心」を、全学年に設定している。</li> <li>・3年以上に、「環境」「共生」について扱った2つの教材とコラムをユニットにして掲載している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻頭に内容項目をまとめた「ゆたかな心」と、道徳の学び方についてまとめた「道徳の時間はこんな時間です」を設けている。</li> <li>・全学年に、他者のよさを認める心、差別や偏見をもたずに分け隔てなく接する心を扱った教材とコラムを組み合わせたユニット「いじめを生まない心」を設定している。</li> <li>・全学年に、「情報モラル」「いじめ」「持続可能な発展」に関する教材を掲載している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻頭に各学年の発達の段階に応じた標語と内容項目をまとめたページと、道徳の学び方についてまとめた「道徳の学習がはじまるよ」を設けている。</li> <li>・「いのちの教育」とともにいじめ防止に関する複数教材を組み合わせたユニット、「かがやかせよういのち」を全学年に掲載している。</li> <li>・全学年に、「いのち」「多様性」「キャリア」に関する教材とコラム「心のパスポート」をユニットにして掲載している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻頭に内容項目をまとめた「何を学ぶのかな」と、道徳の学び方についてまとめた「どんな学びをするのかな？」を設けている。</li> <li>・いじめの問題を扱う2つの教材とコラムで構成したユニット「いじめをなくす」を、全学年に設定している。</li> <li>・各学年の発達の段階に応じて、「生命の尊さ」「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」「人権」「自然環境」「感謝」に関する教材をユニットにして掲載している。</li> </ul>
学校の教育方針との関連について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的な学びを実現するために、全ての教材の冒頭に導入の問いと、教材の末尾に教材のねらいに関わる問い「考えてみよう」と未来への思いや課題について考える問い「見つめよう・生かそう」を設けている。</li> <li>・深い学びを実現するために、教材の末尾に発問「見つめよう・生かそう」を設定している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的な学びを実現するために、全ての教材の末尾に、中心となる問いとこれまでの自分をふり返り、これからの生き方について考えるための問いとして「考えよう」を設けている。</li> <li>・深い学びを実現するために、各教材の末尾に教材のめあてに活用できる「学習へのなぞかけ」教材のねらいに関わる発問「考えよう」を設定している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的な学びを実現するために、全ての教材の冒頭に導入の問いと、教材の末尾に、授業のめあてと教材のねらいに関わる問いを併せた「考えよう・話し合おう」を設けている。</li> <li>・深い学びを実現するために、児童の生活と学びをつなげる「つなげよう」を設定している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的な学びを実現するために、全ての教材の冒頭に導入の問いと、中心となる問い「考えよう」、さらに、考えを広げる発問「まとめよう」を設定している。</li> <li>・深い学びを実現するために、教材の末尾に教材のねらいや他教科との学習に関わる発問「考えよう」「まとめよう」「ひろげよう」を設定している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的な学びを実現するために、全ての教材に考えを深め、自己を見つめるきっかけとなる問いとして「考えよう」を教材の末尾に設定している。</li> <li>・深い学びを実現するために、教材の末尾に教材のねらいに関わる発問「考えよう」を設定している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的な学びを実現するために、全ての教材の末尾に、中心となる問いとこれからの生き方について考えを深める問いと、自己評価欄を併せて、「学びの手引き」を設けている。</li> <li>・深い学びを実現するために、教材のねらいに関わる発問「考えよう」を設定している。</li> </ul>
題材の選択とあつかい・SDG sの扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年にSDG sの目標とのつながりを考えるためのコラムを設定するとともに、巻末にSDG sの17の目標について掲載している。</li> <li>・全学年に、現代的な課題に関わる教材とコラムをユニットにして掲載している。</li> <li>・情報モラルに関わる教材を、コラム「心のベンチ」とともに全学年に掲載している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の学びとSDG sなど現代の課題をつなぐコラム「つながる・広がる」を掲載するとともに、教材との関連を巻末の教材一覧表にまとめている。</li> <li>・情報モラルを扱った教材をコラム「つながる・広がる」とともに、全学年に掲載している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の学びとSDG sなど現代の課題をつなぐコラムや付録を掲載するとともに、教材との関連をマークで各教材のタイトル下部に示している。</li> <li>・現代的な課題に関わる「よびかけ」、複数教材とコラムをユニットにして掲載している。</li> <li>・情報モラルに関わる教材とコラムを組み合わせたユニット「情報と向き合う」を全学年に掲載している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDG sについて、コラム「みんなで作る『わたしたちの未来』」を掲載し道徳の学習内容に関連させている。</li> <li>・全学年に、現代的な課題に関わる複数教材とコラムを重点主題にして掲載している。</li> <li>・情報モラルが学べる教材と関連するコラム「情報モラル」を組み合わせて掲載している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代的な課題とSDG sに関連した教材を掲載し、各教材のタイトル下部にマークで示している。</li> <li>・全学年に、現代的な課題に関わる中扉ページでの「なげかけ」、教材と特設ページ「深めよう」等をユニットにし掲載している。</li> <li>・情報モラルに関わる教材とコラムを組み合わせたユニット「私たちと情報」を全学年に掲載している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な社会の形成に積極的に関わるため、ESDやSDG sに関する教材や資料を掲載し、教材との関連を巻末の教材一覧表にまとめている。</li> <li>・全学年に、現代的な課題に関わる教材とコラムをユニットにして掲載している。</li> <li>・情報モラルを扱った教材とコラムを組み合わせたユニット「情報と向き合う」を全学年に掲載している。</li> </ul>
編集の工夫（フォント、紙質、デジタル教科書、QRコード、One to Oneの学習の工夫など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容項目ごとにマークを設定し、各教材の冒頭に示している。</li> <li>・教材に関連する朗読やワークシート等と心情メーターが掲載されたウェブページへアクセスできる二次元コードを各教材のタイトル下部に設けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容項目ごとにマークを設定し、各教材の冒頭に示している。</li> <li>・教材に関連する朗読やスライドショー、ワークシート等が掲載されたウェブページへアクセスできる二次元コードを全ての教材のタイトル下部に設けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容項目ごとにマークを設定し、各教材の冒頭に示している。</li> <li>・教材に関連する音声や資料を掲載したウェブページへアクセスできる二次元コードを各教材のタイトル下部に設けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容項目ごとにマークを設定し、各教材の冒頭に示している。</li> <li>・教材に関連する動画が掲載されたウェブページへアクセスできる二次元コードを、教材のタイトル下部に設けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容項目ごとにマークを設定し、各教材の冒頭に示している。</li> <li>・教材に関連する写真や動画、ワークシート等が掲載されたウェブページへアクセスできる二次元コードを、各教材のタイトル下部に設けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容項目ごとにマークを設定し、各教材の冒頭に示している。</li> <li>・教材の解説と教材に関する資料が掲載されたウェブページへアクセスできる二次元コードを全ての各教材のタイトル下部と教材の末尾に設けている。</li> </ul>
使用上の便宜（別冊、書き込みなど）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A B判</li> <li>・別冊「道徳ノート」を設けている。</li> <li>・別冊「道徳ノート」には、学んだことや考えたことを自由に記述する書き込み欄を教材ごとに設けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A B判</li> <li>・巻末に、心に残った教材と各学期に自らの学習をふり返る「学習の記録」を設けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B5変型判</li> <li>・巻末に1年～4年はシール貼り付け式、5、6年は記入式の「学びの記録」を掲載している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A B判</li> <li>・「なりたい自分」と各教材の学習の記録を記述する切り取り式のページ「学びの足あと」を設けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A B判</li> <li>・自分のことや学習で学んだことを書き込むことができるよう、巻頭に「つながるわたし広がるわたし」、巻末に「つなげよう広げよう」を掲載している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A B判</li> <li>・巻末に切り取り式のページ「学習をふり返ろう」を掲載している。</li> </ul>
その他（特筆すべき内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決的な学習、体験的な学習や多様な実践活動を生かした学習活動に役立つ内容を掲載した「ぐっと深める」を設定している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他教科との関連や体験的な学習や問題解決的な学習につなげる学習活動例を示した「つながる・広がる」を掲載している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験的な学習や問題解決的な学習を進めるための学習活動を提示した「考えるヒント」や「心を通わそう」を設けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年に、実際の問題となる場面を想定した体験的な活動を通して、よりよい人間関係の構築につなげるコラム「みんなで作ってみよう！」を設けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年に、体験的な学習や問題解決的な学習活動を行うヒントとなるような、コラム「心のパスポート」を複数掲載している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モラルスキルトレーニングや役割演技等、道徳的行為に関する体験的な学習や日常体験を想起して話し合うページ「やってみよう」を各学年に設定している。</li> </ul>

総括

選定した教科書は、「自分を、まわりの人を大切にする力」「自ら学びに向かう力」「みんなと生きていく力」を育むことを意識し、教科書の内容が構成されている。これらの力をつけるために「話し合い活動」が行いやすい教材が多くあった。また、話し合い活動を行う上で手がかりとなるように「内容項目」を児童向けの言葉で表していたり、文章末には見つめよう・生かそうという学んだことを自分のことに置き換えて考えることができるようにしたりと工夫が行われている。学習のまとめや学んだことを道徳ノートを使うことより、自分の思考が整理しやすく、ふり返りが行いやすい。

教科書や道徳ノートの巻末では、コラム「見つけたここにも道徳」や「SDG sで考えよう」と日常と道徳の学習を結びつけやすい点も選定理由として挙げられる。また、いじめの未然防止に向けて、年間3つのユニットがあるので、各学期に行うことができる。いじめを間接的に扱う教材、いじめを直接的に扱う教材を扱っており、いじめを許さない心を育てることと、現実的に起こり得る事象を扱う中で、自分はどう対応したらよいかを学ぶことができる。

上記の理由により児童が主体的に学びやすく、道徳的価値を理解し活用しやすいと考えたため、東京書籍の教科書を選定したいと考えた。

科目	英語
----	----

## 令和6年度使用教科用図書調査報告・選定理由報告書（一覧表） 小学校

	書名 CROWN Jr.	書名 New Horizon elementary	書名 Blue Sky elementary	書名 One World smiles	書名 Here We Go!	書名 Junior Sunshine
	発行者略称 三省堂	発行者略称 東京書籍	発行者略称 啓林館	発行者略称 教育出版	発行者略称 光村図書	発行者略称 開隆堂
観 点	所 見	所 見	所 見	所 見	所 見	所 見
資質・能力の育成について	「伝えたい相手に対して伝えたいことを、英語も使って伝えることができる子」という目標に対して、発表の機会や、プレゼンテーションの機会が、適切に準備されている。一方的に話すのではなく、コミュニケーションを意識した場面設定がある。	「伝えたい相手に対して伝えたいことを、英語も使って伝えることができる子」という目標に対して、発表の機会や、プレゼンテーションの機会が、適切に準備されている。ワークシートに沿ってやると同じ内容で発表することができるような設定になっている。	「伝えたい相手に対して伝えたいことを、英語も使って伝えることができる子」という目標に対して、発表の機会は適切に準備されている。教科書に沿って学習するとある程度、英語の基礎基本が学べる設定になっている。	「伝えたい相手に対して伝えたいことを、英語も使って伝えることができる子」という目標に対して、発表の機会やプレゼンテーションの機会が教科書上ではあまり用意されていないように思われる。	「伝えたい相手に対して伝えたいことを、英語も使って伝えることができる子」という目標に対して、発表の機会やプレゼンテーションの機会が教科書上ではあまり用意されていないように思われる。	「伝えたい相手に伝えたいことを、英語も使って伝えることができる子」という目標に対して、単元ごとにActivityが用意されているので、教科書学習の中で小さい発表のスキルはつくと思われる。
学校の教育方針との関連について	巻末にあるこんなことができた（Can-Doリスト）を使って、自分自身で自分の力の広がりを感じられる。また、JUMPの活動で、主体的な活動に取り組む場を用意し、自分でできたことを自信につなげる活動をしていくことができる。	Picture Dictionary 巻末にある、「Can Doの樹」を使って、つけた力の確認ができる。Check your stepの活動で、既習事項を使って活動に取り組む場が用意されているので、みんながができる活動をしていくことができる。	巻末のCan Do listを使えば、1年間できるようにになったことの確認ができる。それぞれのUnitでとびら⇒1⇒2⇒3⇒振り返りと構成されているが、数単元まとめたのプレゼンテーションの場はあまりない。	巻頭のロードマップで学びの見通しが立てやすい、また、単元ごとの振り返りをする場はある。が年間を通じて何ができるようになったのかを一覧で見ることはしにくい。	巻頭にある5年生でできるようになることのページで、なにできるようになったかを自己評価することができるが、単元として何が・・・が分かりにくい。巻末にあるALL ABOUT Meのページを使うことで、学んだことの一覧で見ることはできる。	巻末にあるCan-Do チェック表で、何ができるようになったかを自己評価することができる。また、表現のまとめて学習した表現の理解を確認することができる。各単元がどのようにつながっているのかを確認することが難しい。
題材の選択とあつかい (どのような点を重視しているか)	5年生で、自分のことから他者のこと、そして、日本のおすすめの場所を伝えることで、世界との接点を持ち、6年生で地域のことを伝え、過去の表現、そして未来について考える・・・という教材の流れがハワイ宿泊などで世界とつなげる本校のカリキュラムにあってる。	5年生で、自分のことから、地域のこと、そして日本のことを伝えることで、世界との接点を持ち、6年で世界の生活や地球のことを考えたり、過去の事や夢を考えるという流れになっている。他教科とのコラボを意識した内容になっている。	5年生で自分のこと、周りの人のこと、海外のことに少し目を向け、6年生で、日本の紹介、過去のこと未来のことを考えるという流れになっている。他教科との連携をしている場面も多くあるが、教科書会社がかかわるとうまく連携できない可能性も高い。	5年生で自分のことから、クラスのこと、日本のことや身の回りのロールプレイを、6年生で友だちのこと、過去の事や思い出、未来のことなどで構成されているが、他社では取り上げられていないお題もいくつかある。が流れとしてところどころ切れているように思えるところがある。	2年間を通してみると、自分のことから他人の事、地域の事、日本の事、世界の事、将来の事を伝えあうとして流れが作られている。単元ごとに発表単元が付加されているが、決められたものを発表するという作りになっている。中学との連携を意図して教材が作られている。	5年生で自己紹介から、自分の身の回りのことを表現する力をつけ、6年生になって、自己紹介から日本のこと、過去のことから未来の事を表現することができるように構成されているが、私たちの(We)の表現や三人称の表現の学習単元がわかりにくい、
編集の工夫 (フォント、紙質、デジタル教科書、QRコード、One to Oneの学習の工夫など)	冊子がA4判と大きくなって見やすい。各ページにQRコードが付与され、そのページ内の音声を簡単に聞くことができるので、各自で学習しやすくなっている。また、ロードマップで学習の見通しが立てやすくなっている。	冊子がA4判と大きくなって見やすい。各ページにQRコードが付与され、そのページ内の音声を簡単に聞くことができるので、各自で学習しやすくなっている。日本語で書かれている量が多く、内容は比較的簡単になっている。	冊子がA4判と大きくなって見やすい。各ページにQRコードが付与され、そのページ内の音声を簡単に聞くことができるので、各自で学習しやすくなっている。日本語で書かれている量が多く、内容は比較的簡単になっている。	冊子の大きさは、従来通り、教科書の構成も見開きて2時間と今までのものとあまり変わらない作り方となっている。イラストでなく写真が多くつかわれていて、イメージをしやすいものになっている。	冊子の大きさは、従来通り、教科書の構成も見開きて2時間と今までのものとあまり変わらない作り方となっている。各ページごとにQRコードが付与されて、音声を簡単に聞くことができるようになってる。	冊子がA4判と大きくなって見やすい。各ページにQRコードが付与され、そのページ内の音声を簡単に確認することができるので、自学しやすくなっている。が、全体的に日本語で書かれている量が多く、英語の教科書という感じがしない。
使用上の便宜 (別冊、書き込みなど)	別冊でMy Dictionaryがついているので、教科書と簡単に見比べることができる。よく使う表現や教室で使う英語など、学習したことを手軽に振り返ることができる。教科書は大判になり、書き込みがしやすくなった。	別冊でMy Dictionaryがついているので、教科書と簡単に見比べることができる。よく使う表現や教室で使う英語など、学習したことを手軽に振り返ることができる。教科書は大判になり、書き込みがしやすくなった。	メジャーな会社と違い、教科書内に単語帳やカードなどを収容している。アクティビティも多く用意されているので、教科書を1冊持っていれば授業を進めることができる内容となっている。	こちら、教科書内に単語帳やカードなどを多く収容している。カードが一番多く用意されており、デジタルでというより手書きのワークシートをという意図が見える。手作り感がある。(Final Activity)	教科書内に単語帳やカードなどを多く収容している。が、教科書に使われている表現や単語などは子どもにもわかりやすいものが多く、デジタル教材を使えば各自で手軽に振り返ることができる。	別冊で各学年の単語帳があり、教科書と比べながら単語学習がしやすくなっている。また、アルファベットとフォニックス学習のコーナーが巻末に用意されているのは、他教科書にはなかった。
その他 (特筆すべき内容)	学習者用デジタル教材よりも、教科書のQRコードを活用することで、指導者用デジタル教材に収容されている音声を気軽に聞きなおすことができる。	ALTがいらない場合に、担任が指導しやすくまた、盛り込みすぎた内容をなだらかに、紙面には日本語で多くの指示をいれることで、だれでも取り組みやすい英語教材になっている。	ALTがいらない場合に、担任が指導しやすくまた、盛り込みすぎた内容をなだらかに、紙面には日本語で多くの指示をいれることで、だれでも取り組みやすい英語教材になっている。	どちらかという、今までの教科書のような感じがする。今回の改訂によっていろいろな指示を日本語で多くいれている教科書が増えたが、従来通りの日本語量で構成されている。	どちらかという、今までの教科書のような感じがする。今回の改訂によっていろいろな指示を日本語で多くいれている教科書が増えたが、従来通りの日本語量で構成されている。	ALTがいらない場合に、担任が指導しやすくまた、盛り込みすぎた内容をなだらかに、紙面には日本語で多くの指示をいれることで、だれでも取り組みやすい英語教材になっている。

### 総括

本校英語科として、今までと同じく三省堂の「Crown.Jr」を採択します。理由としては、教科書学習を進めていくなかで、発表の機会やプレゼンテーションの機会が適切に準備されていることや、書く活動が5年生から6年生に向けて増えており、中学生へと少しずつ増えていること、さらに、本校独自のハワイ宿泊学習に向けてやキャリア教育とコラボしながらプレゼンテーションの準備を進めることができるような時期、流れで教科書学習が組まれていることがあげられる。また、各ページにQRコードが掲載されていることで、動画や音声、資料などを個別で学習している際にも手軽に参照することができ、聴覚・視覚の両面で英語に触れることができる。また、3つのHop-Step-Jumpで学習内容が構成されていて、何を目的として今、学習を進めているのかを意識しやすく、Jumpでは発表活動へ学びをつなげることができるのも使いやすい点である。